

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立若松原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問調査)

4 本校の参加状況

① 国語 184人

② 数学 184人

③ 理科 184人

5 留意事項

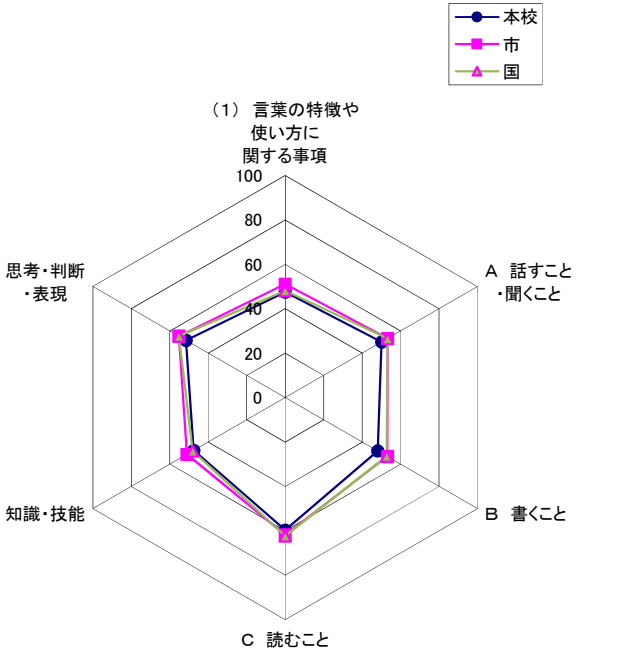
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立若松原中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	47.5	51.1	48.1
	(2) 情報の扱いに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	50.1	53.2	53.2
	B 書くこと	48.0	53.1	52.8
	C 読むこと	59.6	61.8	62.3
観点	知識・技能	47.5	51.1	48.1
	思考・判断・表現	51.6	55.3	55.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

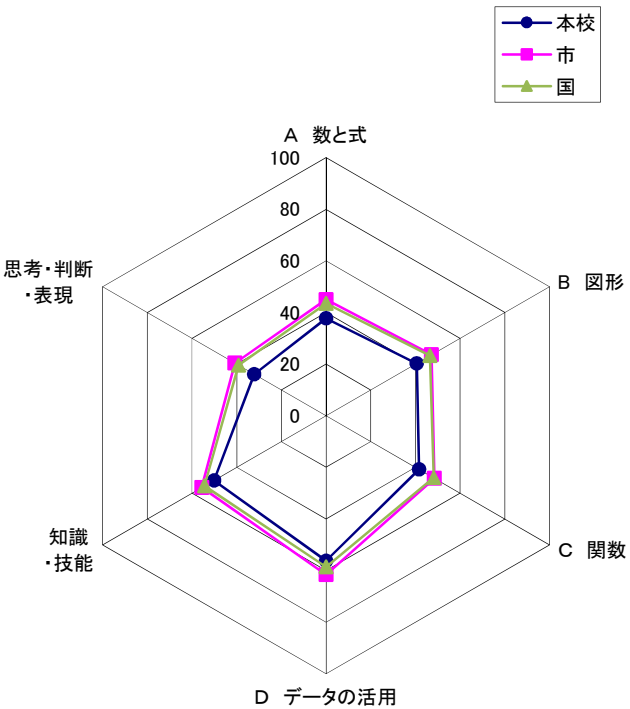
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	正答率は市平均を3.6ポイント、全国平均を0.6ポイント下回った。 ○文脈に即して正しい漢字を選択する問題では、正答率が県平均及び全国平均と同じぐらいで、無回答率は0%であった。 ●文脈から語彙の意味を問う問題では、正答率が県平均をやや下回った。	・漢字の読み書きについては、小テストを行ったり、家庭学習として漢字練習を課したりすることで、定着を図っていく。また、文章の中で漢字や語句を正しく使えるよう、授業において継続的かつ丁寧に指導していく。 ・読書を推奨し、読解力の底上げを図っていく。
(2) 情報の扱いに関する事項		
(3) 我が国の言語文化に関する事項		
A 話すこと・聞くこと	正答率は市平均及び全国平均を3.1ポイント下回った。 ●該当する4問において、県平均・全国平均を数ポイント下回っている。提示された資料は読解力や判断力が求められるもので、状況の理解が不十分であると考えられる。	・授業に話し合い活動やプレゼンテーション等の言語活動を取り入れ、自分の意見をわかりやすく伝えるときに、相手の話を聞く力の育成を図っていく。また、聞き取りテストの頻度を増やすことで、論理の展開がつかめるよう指導の充実を図る。
B 書くこと	正答率は市平均を5.1ポイント、全国平均を4.8ポイント下回った。 ○ちらしの工夫に関する問題は、いずれも無回答率が低かった。 ●与えられた文章から状況を理解し、より効果的なちらしをつくらうと工夫する問題は、いずれも正答率が低かった。 ●手紙を書く際の漢字や言葉遣い等について問う問題は、無回答率が高かった。	・授業等において文章を書かせる際、相手にどう伝わるかを意識させていくことで、表現力を高めさせる。 ・書くことに抵抗感がある生徒に対しては、キーワードを示したり、構成表を有効に用いることで、少しずつ長い文が書けるよう指導していく。
C 読むこと	正答率は市平均を2.2ポイント、全国平均を2.7ポイント下回った。 ○物語の読解に関する問題は、他と比較して正答率が高く、物語を読むことに抵抗が少ないことがうかがえる。 ●文の構成や展開について、根拠を明確にして考える問題では、無回答率が非常に高かった。	・物語は抵抗なく読むことができるが、文が長くなると途中であきらめてしまう傾向が見られる。読書を通して、長い文章に粘り強く向き合う姿勢を育て、理解を深めさせていく。また、文章における段落構成や表現の効果等を、授業を通してじっくり考えさせていく。

宇都宮市立若松原中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	37.7	45.0	43.5
	B 図形	40.6	47.2	46.5
	C 関数	41.6	48.5	48.2
	D データの活用	56.2	61.6	58.6
観点	知識・技能	50.1	55.6	54.4
	思考・判断・表現	32.2	40.7	39.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	正答率は市平均を7.3ポイント、全国平均を5.8ポイント下回った。 ○「連続する2つの3の倍数の和は、いつも9の倍数になる」という予想に対する反例をあげる問題は、市平均・全国平均を上回った。 ●素数を選ぶ問題、数量を文字を用いた式で表す問題、式の意味を読み取って説明する問題は、いずれも正答率が低かった。	・素数の性質、割合の表し方など、基礎的な内容をしっかり理解させる。 ・具体的な数で理解することができても、xyといった文字で表現すると理解しづらくなる傾向が見られる。まずは具体的な数値で理解させてから、文字に置き換えて考えさせるなど、指導方法を工夫する。
B 図形	正答率は市平均を6.6ポイント、全国平均を5.9ポイント下回った。 ●四角形が平行四辺形になることの証明問題は、いずれも正答率が低く、難易度の高い問題は無解答率も高かった。	・平行四辺形の性質や平行四辺形になるための条件について理解させるとともに、証明の手順について丁寧に指導し、苦手な生徒には空欄形式にするなどの工夫をする。リード文が長い問題に対しては、苦手意識をもちやすく、あきらめてしまう傾向が見られる。問題文が何を説明しているのかを粘り強く読み取り、理解させていくことも必要である。
C 関数	正答率は市平均を6.9ポイント、全国平均を6.6ポイント下回った。 ○一次関数のグラフが何を表しているか理解を問う問題は、比較的正答率が高い。 ●一次関数のグラフをもとに、走行距離から運賃を求める方法を文章で説明する問題は、無解答率が非常に高くなっている。	・1年で学習する比例・反比例、2年で学習する1次関数の学習において、グラフの読み取り方やxの増加量に対するyの増加量を正確に理解させる。 ・日頃の授業において、解法や考え方を言葉や文章でわかりやすく説明する活動を取り入れ、苦手意識を克服させていく。
D データの活用	正答率は市平均を5.3ポイント、全国平均を5.4ポイント下回った。 ○必ず起こる事柄の確率を問う問題では、7割以上が正答している。 ●度数分布表から相対度数を求める問題は、正答率が市平均を大きく下回っている。	・確率を求める際に、樹形図や表を利用することで起こりうる事柄を整理させていく。 ・度数分布表やヒストグラムから求められる代表値の種類とその求め方を確認し、実践的な問題に取り組ませる。

宇都宮市立若松原中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがあると思うか」という質問に対し、89.2%の生徒が肯定的な回答をしている。また、「将来の夢や目標を持っているか」という質問においても、肯定的な回答が70.1%に達しており、多くの生徒は自分の良さを自覚し、目標意識をもとに前向きな生活を送っていることがわかる。

○「人が困っているときは、進んで助けているか」という質問に90.9%が肯定的に回答し、「人の役に立つ人間になりたいと思うか」という質問にも97.2%が肯定的に回答している。また、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うか」という質問には97.7%が肯定的に回答しており、全国平均(95.9%)を上回っている。集団において、人との関わりを大切に、良好な人間関係を築こうとする意識が定着しているといえる。

○「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思うか」という質問に対し、肯定的な回答が94.9%に達している(栃木県平均94.3%、全国平均92.2%)。また、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できるか」という質問でも肯定的割合が高い。今後も、授業だけでなく部活動や委員会活動などの様々な活動を通して、個々の生徒の良さを認め励ます機会を大切にしていく。

●授業に関して、「生徒間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができているか」「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、工夫して発表していたか」という質問において、肯定的割合が低かった。協働的な学びに関して、更なる質的向上が求められることがわかる。

○●「タブレット等ICT機器を用いた文章作成、情報収集、プレゼンテーション作成などのスキルが向上した」と回答する生徒が多い一方で、授業におけるICT機器の使用頻度が低かった。

●「読書は好きか」という質問に対する肯定的な回答は50.8%であり、栃木県(64.9%)、全国(61.6%)の平均を大きく下回っている。読書を通して得られる理解力・思考力は、いずれの教科においても役立つ汎用的なスキルである。新聞も含め、活字に親しむ態度を育てるとともに、小説にとどまらず、様々な種類の文を読む機会を奨励していく。

宇都宮市立若松原中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の定着	・自主学習「チャレンジノート」の提出	・家庭学習に取り組む時間は全国平均・県平均と比べて短く、「全く家庭学習をしない」と回答した生徒も平日10.2%、休日14.7%にのぼっている。また、内容も漢字練習や簡単な計算など、取り組みやすいものに終始している傾向が見られる。いずれの教科においても基礎・基本の定着を最重点に据えるとともに、「自分に必要な学習はどのようなものか」を考えさせることで、質の向上を図ってきたい。
学習に臨む姿勢に関する指導、学習環境の醸成	・授業の受け方や学習への取り組み方に対する継続的な指導	・「授業では、課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいるか」との質問に対する肯定的回答割合は74.0%で、県平均(80.9%)、全国平均(77.7%)を下回った。ほとんどの授業は落ち着いた雰囲気であるが、主体性の面で大きな課題があることがわかる。基礎・基本の更なる定着を図るほか、教師側が問いや手立てを工夫することで、追究意欲を向上させていく必要があるといえる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・いずれの教科においても、基礎的な用語を問う問題の正答率が低い。	・基礎的・基本的内容の更なる定着	・各教科において授業で既習内容を復習する機会を設けたり、宿題や課題を出したりする。また、基礎的な内容については、方法を工夫して小テストを行うことで、知識の定着を図っていく。
・国語・英語をはじめ各教科において、書くことに対する苦手意識があり、正答率が低く、無解答率も高くなっている。	・書く活動の重点化	・自分の考えや意見を適切に伝えることができるよう、各教科において書いて表現する活動を取り入れていく。その際、書く上での視点を明確に与えたり、途中で自分が書いた文を見直させることで、一貫性のある論理的な文章が書けるよう継続的に指導していく。また、教師の添削指導によって、ねらいが達成できたか、どう改善していけばよいかを丁寧に指導する。
・授業におけるICT機器の使用頻度が低い。	・ICT機器の効果的な活用	・各教科において、ICT機器をどのタイミングでどのように活用すべきかを明確にし、教科内での共通理解を図る。また、研修の機会を設けて全教員間で情報交換を行い、学校体制で効果的な活用のしかたについて研究していく。